

どん底 (1936)

LES BAS-FONDS
THE LOWER DEPTHS

メディア 映画

ジャンル ドラマ 犯罪 ロマン스

製作国 フランス

色彩 B&W

時間 95分

初公開日 1937/11/

公開情報 劇場公開

映倫 G

【解説】

設定をオリジナルの帝政ロシアから現代のパリに移し、独自の大らかさを湛えたルノワール流の“どん底”にしている。特に主人公もなく、ドラマ性も希薄な原作に比べ、はっきりと中心人物を置き、筋も盛り込んで映画になった。

男爵（L・ジューヴェ）はとうとう財産を使い尽くし、最後の運命を賭けた賭博にも負け、死を覚悟する。一方、場末の木賃宿に住む親譲りの盗っ人ペペル（ギャバン）はその世界を出ていくことを強く望んでいる。彼がある夜忍び込んだ邸が男爵の家。自殺を図ろうとしている男爵を止めたことから、一晚を二人で語り明かし、男爵は彼らの木賃宿の仲間となる。宿の主人コスツィリョフの女房ワシリーサはペペルに浮気心を疼かせていたが、彼が好きなのはその妹のナターシャだった。彼女の愛情により今の稼業から足を洗う決意をしていたペペルだが、姉妹は彼をめぐって争った。ある夜夫婦揃って妹を痛ぶるワシリーサ。叫ぶナターシャにペペルは彼らの部屋に飛び込みコスツィリョフを殴りつけた。中庭に逃れた彼だが、下宿人たちに鬨り殺しにされてしまう。ワシリーサは嫉妬に狂って、犯人はペペルだと警察に訴えた。ナターシャはひたすらペペルの帰りを待った。そして出所したペペルは門の前に立つ彼女を見つける。二人は新生活へと旅立つが、見送る男爵はすっかり宿に根を生やしてしまっていた……。

単に新旧の交代ではなく、富める者と持たざる者の絶望と希望の交錯を描いて、しみじみと人生に想いを馳せさせる作品。威厳あるジューヴェの演技が圧巻。

【クレジット】

監督	ジャン・ルノワール	Jean Renoir	
原作	マクシム・ゴーリキー	Maksim Gorki	
脚本	ジャン・ルノワール	Jean Renoir	
	シャルル・スパーク	Charles Spaak	
脚色	E・ザミアチン	E. Zamiatine	
	J・コンパネーズ	J. Companeez	
台詞	ジャン・ルノワール	Jean Renoir	
	シャルル・スパーク	Charles Spaak	
撮影	F・ブルガース	F. Bourgas	
	ジャック・メルカントン	Jacques Mercanton	
編集	マルグリット	Marguerite	
音楽	ジャン・ウィエネル	Jean Wiener	
出演	ジャン・ギャバン	Jean Gabin	ペペル・ワスカ

ルイ・ジューヴェ	Louis Jovuet	男爵
シュジー・プリム	Suzy Prim	ワシリッサ・コスティレフ
ジュニー・アストル	Junie Astor	ナターシャ
ウラジミール・ソコロフ	Vladimir Sokoloff	コスティレフ
ジャーニー・オルト	Jany Holt	ナスティア
ロベール・ル・ヴィガン	Robert Le Vigan	
カミーユ・ベール	Camille Bert	